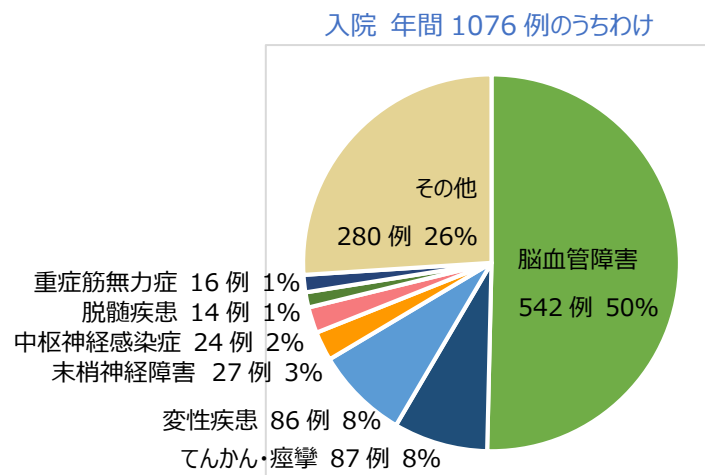


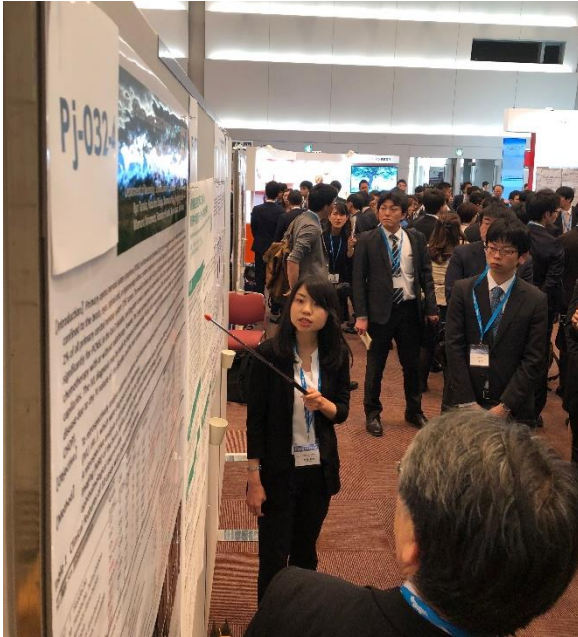
当院は地域の基幹病院として神経内科疾患全般についての診療をおこなっており、救急疾患から変性疾患まで様々な神経疾患を学ぶことができます。昨年度の神経内科入院患者総数は 1076 例で、その内訳は脳血管障害 542 例、てんかん・痙攣 87 例、パーキンソン病や ALS など変性疾患 86 例、ギランバレー症候群や CIDP など末梢神経障害 27 例、髄膜炎・脳炎など感染症 24 例、多発性硬化症、急性散在性脳脊髄炎など脱髄疾患 14 例、重症筋無力症 16 例などでした。脳静脈洞血栓症、肥厚性硬膜炎、クロイツフェルト・ヤコブ病など比較的稀ではありますが、臨床的に重要な疾患も含まれています。脳卒中に関しては 1 例ごとに病型診断、画像所見を大切に、エビデンスに従った治療を行うことを心がけています。



週 1 回リハビリテーションチームとの脳卒中合同カンファランスを行い、患者さんの病態の検討、治療方針の確認、機能的予後などの検討を行っています。また、脳血管内治療の専門医が 1 名あり、脳神経外科の血管内治療チームと連携して脳梗塞の超急性期治療にも積極的に取り組んでいます。後期研修医時代はこうした多くの患者さんを担当し、脳波、筋電図、頸動脈エコーなどを専門の指導医から学び、後期研修修了時には神経内科専門医を受験することが十分可能となります。

後期研修の間に、電気生理検査や頸動脈エコーの基本的な手技を習得して、一人で検査が行えるようになります。





第 60 回 日本神経学会学術大会（大阪）

また、同じ国立病院機構の東名古屋病院とも連携しており、内科専門医研修制度の中で東名古屋病院で神経難病の診療を中心として研修をすることも可能です。

神経内科スタッフは 9 名で、神経内科専門医 5 名、脳卒中専門医 2 名、脳神経血管内治療専門医 1 名、てんかん専門医 1 名です。学会活動も活発で、昨年度は 13 演題の発表を行い、7 演題を後期研修医が発表しました。スタッフは昼夜を問わずよく働きますが、時間を作って食事会をするなど、和気あいあいとしたチームです。夏休みシーズンにはそれぞれ 1 週間ほどの休暇をとって旅行などを楽んでいます。やる気のある仲間を募集しています。ぜひ、一緒に頑張りましょう！



2019 年 4 月 脳卒中カンファレンス 1000 回達成の記念撮影（リハビリテーションスタッフ、ソーシャルワーカーと一緒に）